

## 今年度の理学同窓会(瑞滝会)奨学生の紹介

大学四年の一年間はほとんど研究室で実験をして過ごす日々になりました。

自分の所属する木藤研究室は快適に実験ができ、そんな環境に自分が置かれていることに感謝しつつ研究の進捗が気になって仕方ない日々を過ごしています。

後輩たちには悔いのない研究室や進路の選択が出来ることを願っています。

学部4年 **こしやま てるひこ**  
**越山 輝彦**



多分野が学べる、先生との距離が近い、この総合生命理学部のおかげで、私は「理学」の面白さを知ることができ、やりたいことを見つけることができました。この学部に入られてよかったと心から思っています。研究室配属された今、研究者の端くれとして日々を送っております。「理学」に真摯に向き合うことで、学部、瑞滝会に、残りの時間をかけて感謝の気持ちを伝えていきたいと思っています。最後になりましたが、瑞滝会奨学生として選出して頂けたことに感謝を申し上げます。

学部3年 **くろだ るな**  
**黒田 琉奈**



瑞滝会奨学生に選出していただき、ありがとうございます。この学部で興味あることを学び、体験することができたのは、偏に先輩方や先生、瑞滝会の皆様の支えがあってのことです。これからもより一層の研鑽に励んでまいります。

学部2年 **とみなが しおり**  
**富永 栞**

## 理学同窓会(瑞滝会)同窓会奨学生の募集

瑞滝会では学業優秀で学内行事等にも積極的に活動をしている総合生命理学部生(対象は2年生~4年生の各一名ずつ)に同窓会奨学金として、10万円を贈呈します。

申し込み用紙をホームページからダウンロードして申し込んでください。

申込期間は令和4年4月15日から5月31日までで、書類を指導教員(担任)に提出してください。

\*一度選定された方は応募できません。  
\*成績、その他の評価は前年度が対象となります。

### 編集後記

表紙の写真ですが、実は私が滝子キャンパス内で撮影したものです。四季折々、様々な顔を見せる滝子キャンパスは私のお気に入りの撮影スポットだったりします。また、今回の表紙は「季節は巡ること」と「総合生命理学部一期生の卒業」を掛けていたりもします。先輩方が卒業すれば新入生が入学してくる。そんな巡りを表現したく、このような表紙にしました。すべての人に素晴らしい春がやってきますように。(山本)

## 名古屋市立大学 交流会入会の案内

皆さん、名古屋市立大学交流会に入会していますか。学部単位と同窓会に加えて、卒業生、修了生、大学現旧教職員、本学にゆかりのある方を含めた全学レベルの組織を設立し、大学の発展と社会への貢献を図ることを目的として、平成25年3月「名古屋市立大学交流会」が設立されました。入会方法は「名古屋市立大学交流会」で検索し、入会案内に従いお名前やご住所を記入、返信するだけです。是非、ご入会ください。

## 瑞滝会総会のお知らせ

瑞滝会では昨今の事情を鑑みて、毎年6月に開催している同窓会総会は、今年度もオンラインによる採択となりました。また、それに伴い今年度の同窓会懇親会は中止となりました。

## 名古屋市立大学 理学同窓会

# 瑞滝会 会報誌 2022 March



## 同窓会会長からの挨拶

2020年度の会報誌(2021.3)を眺めていて、ため息が出てしまいました。同窓会総会はオンライン開催、懇親会は中止としたことが述べられています。しかし、2021年度は会員諸氏と直接、近況を報告しあうことができるだろうと楽観的に考えていました。まさか、新型コロナウイルスの影響がこれほど長く続き、2年連続で総会・懇親会の対面開催ができなくなると思いませんでした。

今現在(2021.12)、ワクチン接種も進んで新規感染者が激減し、街に活気が戻りつつあります。しかしここきて、変異株(オミクロン株)の話題が新たな不安材料となって心を重たくしています。これまで通り、感染には十分気を付けてお過ごしいただきたいと存じます。

会員諸氏の中には新型コロナウイルスの影響を受け、仕事や生活が大きく変化した方もおられることと推察します。来年こそは花見を楽しみ、総会・懇親会を盛大に開催し、これまでのうっ憤を晴らしたいと役員一同、切に願っています。



名古屋市立大学 瑞滝会 会長

**對馬 明**  
役員 一同

# 新研究科長からの挨拶

2000年に発足したシステム自然科学研究科は2020年に理学研究科と名称を変更し、これまでに博士前期課程280名、後期博士課程24名の方々が修了されて、各方面でご活躍されています。また、2018年4月に設置された総合生命理学部は2021年度に完成年度となり、4年生から1年生までがそろって学部としての教育活動が全面的に動き出しました。この2022年3月には待望の第一期生32名が卒業を迎えます。これを機に理学同窓会が益々発展することを願っています。

現代の社会は技術革新が激しく進展する一方で、新型コロナウイルスのように思いもよらぬことが起こります。このような時代にこそ、科学技術の根底を支える理学が必要とされ、理学の研究を修めた人材が社会から求められます。理学を志す学生達にとって、身近な先輩である大学院修了生・学部卒業生の活躍が大きな励みになることでしょう。これからも同窓会が熱意ある学生を応援し勇気づけてくださることを期待しております。

理学研究科長 かわた しげと  
総合生命理学部長 河田 成人 教授

# 院生からの便り

私は現在鎌田直子先生のご指導のもと、結び目の不変量に関して研究している大学院一年です。大学院の入学当初は私が外部入学ということもあって緊張していたのですが、同じような志を持った友人達ができ、その友人達と研究の話はもちろん、他愛ない話をしたり、ボードゲーム等で遊んだりし毎日がとても充実しております。

大学院の博士前期課程ももう半分が終わってしまっていますが、残りの時間も大切に研究を続けたいと思います。

ひらき もえみ  
修士課程1年 / 鎌田研 開 萌実

# 学部生からの便り

## 研 究生活が始まって



「研究は生き物、自分のテーマを育てていってほしい。」配属されて一番初めに教授からいただいた言葉です。生き物のように意外で新しい発見に溢れ、自分の作った新規化合物がいつか一つの研究分野になるかもしれない、そんなロマンが詰まったこの言葉が私は大好きです。

配属されてから毎日、新しい知識・経験でいっぱいです。少しずつ知識や経験を積み、いずれは世界に通じる研究者となれるよう、テーマと共に育っていきたくです。

こばやし せいか  
学部3年 / 雨夜研 小林 世佳

## 大 学生になって



名古屋市立大学に入学してから間もなく一年が経とうとしています。理学を学ぶ同志や、ともに部活動に励む仲間に出会い、期待の膨らむ一年となりました。

自分は名古屋市立大学管弦楽団に所属し、ヴァイオリンという楽器を弾いています。このヴァイオリンという楽器はなかなか知名度が低く、一般的に知られている楽器ではありません。しかし、ヴァイオリンより大きくチェロより小さいその筐体から生み出される音色は弦楽器の中でも特別人の心に染み渡るような素晴らしい音色です。

学部内では様々なことに触れることができました。もともと宇宙の分野にとっても興味があり、物理系のことや宇宙のことについて学問として学んでいく道を少し垣間見ることができました。さらに生命系の学問にも興味を持つ機会も多くありました。学部の友達は自分の興味を持っている範囲とは全く異なる範囲に興味を持っており、学科分けされていない総合生命理学部ならではの分野を超えた会話を楽しんでいます。

いしはら れん  
学部1年 石原 廉

# 総合生命理学部で過ごした4年間を振り返って



私は1期生として名古屋市立大学総合生命理学部に入学しました。先輩がおらず大変なことも多くありましたが、先生方と協力してこの学部を開拓しているようで充実した4年間だったと感じています。

陸上競技部での日々の活動や遠征、放課後に先生の研究室に集まってテスト勉強や雑談をしたこと、瑞秀賞をいただいたことは非常に貴重な経験で総合生命理学部でしかできなかったことだと思っています。卒業研究では先生や博士課程の先輩方に実験の基礎から丁寧に教えていただき、社会に出た時にも役に立つことを学びました。

大学生活で学んだことを生かして、来年からの社会人生活を頑張っていきたいと思います。お世話になった先生方、ありがとうございました。

やまざき あみ  
山崎 杏実

奥津研 / アピ株式会社(食品系)へ就職予定



総合生命理学部での4年間は、とても温かいものでした。1期生ということで最初は先輩がいないことに不安を感じていましたが、先生方の手厚いサポートでそんな不安はすぐに無くなりました。どの先生も、学業についてはもちろん、進路についても毎日のように相談に乗ってくださり、第二の家族のように感じていました。本当にありがとうございました。

そんな温かい環境の中、大学生活では様々なことに取り組むことができました。ミスコンテスト、吹奏楽団、教育実習、卒業研究…。コロナ禍もありましたが、どれもかけがえのない思い出です。

私は、4月から、理科(化学)の教員として母校の教壇に立つことを決めました。教育実習で、憧れの先生と愛おしい生徒たちに出会ったことがきっかけです。学部の卒業生からは初の教員となります。総合生命理学部で培った「自ら学ぶ姿勢」を持ち続け、立派な教員になれるよう、精進してまいります。

たけだ ゆき  
武田 祐季

杉谷研 / 県内私立高校へ着任予定



多くの出会いがあった。教授、他学部の友人、もちろん総合生命理学部の人たち。全員ばらばらな個性。高校のときは周りに同じような考えの人ばかりで、斬新だった。特に他学部の人ほど価値観と考え方が全く違って楽しい。そんな人たちに流されるがままいろいろやってきた。麻雀、ゲーム、学祭などなど。その中で、やっていることが別でも同じメンバーなら不思議と中身も似てくる。内容はともかく、何かを作るのは人なのだと思います。

そのような違いに触れる中で、自分の個性は何なのだろうと考える。答えは普段の営みの中に。麻雀とゲームにはまっていたのに最近ではほぼほぼ実験室にいる。実験は面白い。誰も作っていないものができたら嬉しいし、論文になれば成果が世界中に広まり、後世に残る。にぎやかだとか、冷静だとかいった言葉表現以上に個性が伝わる。個性の自覚は難しいが、誰かに自分のことを理解してほしい。その術をこれから磨いていきたい。

いまい ともや  
今井 友也

雨夜研 / 名市大理学研究科へ進学予定